

協同学習における動機づけ・学習観・学習行動の関係

中西良文・長濱文与・下村智子・守山紗弥加・奥田久春（三重大学）

梅本貴豊（京都外国語大学）

キーワード：社会的動機づけ、協同作業の認識、社会的スキル、学習行動

学習者の学習行動に影響を与えるものとして、これまで動機づけや学習観が主要な要因として取り上げられ、それを実証した研究も枚挙にいとまがない。これに関して、従来の研究では基本的には個人で学習に向き合う場面が取り上げられてきたが、協同での学習についても上記と同様の様相が見られるであろう。そこで本研究では、協同を伴う学習における学習行動に注目し、動機づけや学習観がそれらにどのように関連するかについて検討を行う。なお、本研究では、調査の対象とする実践として、Project-based Learning を中心として協同学習を取り入れた大学初年次教育の実践を取り上げ、特に入学後間もない時期において調査を行うことで、大学での本格的な協同学習での経験を受ける以前に、協同を伴う学習行動に影響を及ぼす動機づけ・学習観の要因について検討を行う。また、協同を伴う学習行動においては社会的なスキルも影響することが考えられるため、これらについても取り上げる。

【方法】

対象 協同学習を取り入れた授業を行っている授業の受講生として、地方国立大学の初年次教育科目を受講している1年生782名。

質問紙 質問紙には以下の尺度が含まれた。

「協同学習における動機づけ尺度」 中西・中島・下村・守山・長濱・大道・益川（2014）で作成されている協同学習における社会的動機づけを5段階評定で問う27項目を用いた。下位尺度としては、他者からの触発による動機づけ、他者援助動機、メンバーからの被評価動機、メンバーからの被嫌悪回避動機、グループに対する被評価動機、他者からの知識影響に対する動機からなる

「社会的スキル尺度」 菊池(1988)による「KiSS-18 (Kikuchi's Scale of Social Skills: 18 items)」を用いた。1因子18項目。

「協同作業に対する認識」 長濱・安永・関田・甲原（2009）で作成されている協同効用9項目、個人志向6項目、互惠懸念3項目からなる協同作業認識尺度18項目を用いた。

「協同学習中の行動に関する尺度」 個人が授業を聞いて個別に学習を行うスタイルの授業だけではなく、協同学習をはじめとする他の受講生と関わりを通して学習を進めていく授業も視野に入れ、授業に関わってどのような学習行動を行うかについて、質問項目を作成した。40項目5件法。

調査実施方法および実施時期 授業で一斉配布し、次の授業までに回答して、次の授業時に提出してもらう、一斉配布・持ち帰り回答形式で行った。調査の時期としては、初回授業（4月中旬）で配布をした。

【結果と考察】

まず新たに作成した協同学習中の行動に関する尺度については、得られたデータに対し重みなし最小二乗法による因子分析を行い、解釈可能性の観点から6因子解を採択し、Promax回転を施した。そしてこの結果を基にして、傾聴、価値づけ、意見表明、関連情報の探索、授業外学習、活動促進という6つの下位尺度を構成した。

続いて、ここで構成された学習行動に関する6つの下位尺度の得点を従属変数、協同学習における動機づけ尺度とKiSS18、協同作業に対する認識尺度における得点を独立変数とした重回帰分析を行った。

その結果、いずれの学習行動に対しても、社会的動機づけ尺度に含まれる他者からの知識影響に対する動機ならびにKiSS18が関連しているという結果が見られた。本研究で扱っているデータは大学入学時のものであるが、そのような時点では他者から知識を得るために他者と積極的に関わりたいという動機づけや、KiSS18で測られるような社会的スキルの高さが、他者との関わりの中で行われる学習行動だけではなく、個人で完結する学習行動においても関連していると考えられる。また、協同作業に対する認識においては、互惠懸念がさまざまな学習行動と関連していることが見いだされ、本格的な協同学習の経験前には互惠懸念という側面が学習行動を促すある種の影響力があることが予想される。

Table 1 各学習行動を従属変数とした重回帰分析結果(標準偏回帰係数)

	傾聴	価値づけ	意見表明	関連情報の探索	授業外学習	活動促進
他者からの触発による動機づけ	.114 *	-.044	-.088	.015	.120 *	-.036
他者援助動機	.079	.105	.080	.137 *	.108	.105
メンバーからの被評価動機	-.104 *	-.018	.125 **	.000	-.147 **	.114 *
メンバーからの被嫌悪回避動機	.044	.032	-.071	.060	-.020	-.028
グループに対する被評価動機	.036	-.094 *	-.038	-.164 **	.018	-.105 *
他者からの知識影響に対する動機	.181 ***	.383 ***	.142 ***	.254 ***	.207 ***	.156 ***
KiSS18	.319 ***	.260 ***	.518 ***	.174 ***	.295 ***	.462 ***
協同効用	.194 ***	.054	.111 **	-.025	-.025	.039
個人志向	-.057	.054	.007	-.013	-.010	-.045
互惠懸念	-.085 *	.113 **	.006	.276 ***	.166 ***	.143 ***
R ²	.472 ***	.319 ***	.475 ***	.210 ***	.252 ***	.402 ***
N	703	701	700	701	702	702

*: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$

【引用文献】 菊池章夫（1988）. 思いやりを科学する 川島書店, 170-174.

長濱文与・安永悟・関田一彦・甲原 定房（2009）協同作業認識尺度の開発 教育心理学研究, 57, 24-37.

中西良文・中島誠・大道一弘・益川優子・守山紗弥加・下村智子・長濱文与・中山留美子 2014 協同学習場面における社会的動機づけ尺度作成の試み 三重大学教育学部紀要 65, 335-341.